

本指導案は、「2017年度 横浜美術館コレクションを活用した授業のための中学校・美術館合同研究会」において横浜市立中学校の教員と横浜美術館が協働で作成しました。

## 横浜美術館コレクションを活用した鑑賞授業

# 美術科学習指導案

### 1. 題材名 **魔術の「黒」をみつめて ～奥深い「黒」の魅力にせまろう～**

2. 題材作品 長谷川 潔 作《草花とアカリヨム》  
1969年（昭和44） メゾチント 26.4×35.6cm 横浜美術館蔵

3. 実施学年 第2・3学年

4. 学習指導要領との関連（指導事項） B鑑賞（1）ア、イ

#### 5. 本題材について

本題材は、横浜美術館のコレクションとして所蔵されている長谷川潔《草花とアカリヨム》を取り上げる。長谷川潔はフランス語で「マニエール・ノワール」と呼ばれる銅版画技法「メゾチント」を生かした独自の作風で知られ、その技法が生み出す深い「黒」は、鑑賞者の想像を深くかき立てる。

本題材では、鑑賞活動の間に簡易的な表現活動を取り入れることで、描画材による「黒」の色調、質感の違いを確かめ、それらがもたらすイメージなどについて、実感的に理解を深めることができるよう工夫している。一学年で色彩についての学習を経た生徒たちが「黒」という色と改めて対面し、クラスメイトと関わり合いながら様々な価値や意味づけを行うことで、これまで及ぶことのなかった色彩の象徴的な意味や技法による色彩の表れ方に関心をもち、鑑賞の目を一層深めることにつながる題材となることを期待している。

#### 6. 題材目標

鑑賞を通して色彩が人の感情に与える効果を理解し、そこに込められた作者の思いや創造的な表現の工夫、造形的な良さや美しさなどを感じ取り、作品を幅広い見方、感じ方で味わおうとする。

#### 7. 題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
○表現方法により変化する「黒」の特徴や印象、質感の違いに関心をもち、そこから生まれるイメージや美しさを主体的に感じ取ろうとしている。 ○作品の形や色彩などの特徴や印象、本質的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などに関心をもち、主体的に感じ取ろうとしている。	○美術作品に取り入れられている形や色彩などの特徴や、印象などから全体の感じ、本質的な良さや美しさなどを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。

#### 8. 準備

教師 : 作品図版、ワークシート（ケント紙に印刷したもの）

描画材（鉛筆、パステル、コンテ、クレヨン、筆ペン、木炭、水性・油性ペンなど）

生徒 : 教科書、資料集、筆記用具

9. 授業展開（全1時間）

1	生徒の活動	教師の指導・支援
導入 10分	<p>◆長谷川潔《草花とアカリヨム》鑑賞①</p> <p>○作品を見て、気付いたこと、感じ取ったことをワークシートに記入する</p> <p>○「黒」に対するイメージを考える</p>	<p>◇作品図版・ワークシート配布</p> <p>●数名の生徒を指名し、意見を板書する</p> <p>●作者である長谷川潔と横浜との関わりについて紹介する</p> <p>●作品がモノトーンの階調で表現されていることに注目させ、「黒」の質感や色合いに着目しながら鑑賞活動を深めていくことを伝える</p>
展開 (1) 15分	<p>○3～4人で1グループをつくる</p> <p>◆「黒」を描く</p> <p>○様々な描画材を用いて、ワークシートの円内を黒く塗りつぶし、「黒」を表現する（個）</p> <p>○異なる描画材を用いた黒の表現を通して、気付いたことや考えたことをワークシートに記入する（グ）</p>	<p>◇描画材配布</p> <p>●筆圧や塗り方によっても、色調や質感が変わることを確認させる</p> <p>●数名の生徒を指名し、意見を板書する</p>
展開 (2) 18分	<p>◆長谷川潔《草花とアカリヨム》鑑賞②</p> <p>○改めて作品を鑑賞し、作品を構成している「黒」の質感や色合いから感じ取ったことをワークシートに記入する（個）</p> <p>○班内で個々の考えを共有する（グ）</p> <p>○共有したことを基に意見を出し合い、班で作品の題名を考える</p> <p>○話し合ったことを班ごとに発表する</p> <p>○「メゾチント」の表現の特性について理解を深める</p>	<p>●「黒」の質感や色合いの違いを感じ取る視点をもって、より深く作品を鑑賞するように伝える《発問1》 『作品の「黒」の質感や色合いなどから、どんなイメージや雰囲気を感じ取れるだろうか』 《発問2》 『最初の鑑賞で気付いたことをふまえ、作品の題名を班で考えてみよう』</p> <p>●マニエール・ノワール（黒の技法）と呼ばれる版画技法「メゾチント」について解説する</p>
まとめ 7分	<p>○授業を振り返り、作品の見方や感じ方がどのように変わったかをワークシートに記入する（個）</p>	<p>●一言に「黒」といっても多様な表情があるということの気付きによって、鑑賞がより深まったことを認識できるようにする</p> <p>●本作品が横浜美術館のコレクションであり、美術館に足を運ぶことで、図版では感じ取ることのできない微妙な色調や質感を身近に鑑賞できることを知らせる（展示期間は事前確認が必要）</p>

（個）個人 （グ）グループ

■指導案作成者からのメッセージ

単調に捉えがちな「黒」の中にも、様々なバリエーションや豊かさがある。図版では作品の色調や質感を正確に再現することが困難である故に、学校での鑑賞授業は視覚的な印象論になりがちであるが、実際に描画材に触れ、その目で色合いや質感の違いを確かめながら「鑑賞の目」を育てていくことで、幅広い見方や考え方を身に付け、本物の作品と対面したときの鑑賞体験をいっそう深めることができると期待している。

■参考文献

・『銅版画家 長谷川潔 作品のひみつ』横浜美術館、2006年

（指導案作成：横浜市立中学校教諭 渡邊 淳／吉田浩気／亀田良子）